

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 208 号	2018年11月27日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月26日（金）27日に予定していた脱穀を天気予報により急遽脱穀しました。会長以下会員10名が参加しました。その後、西村さんご夫婦により、粃の追加乾燥と粃摺り（臼ひき）をしていただきました。収穫量は稲作開始以来一番となる玄米量245kg（4俵強）となりました。
- 11月4日（日）会員9名が参加し、須賀河内川のヨシ刈り、ハゼ掛けに用いた竹の整理および補修、廃竹の焼却の作業を実施しました。また話し合いにより、来年も稲作体験を行うことが決まりました。
- 11月17日（土）会員11名が参加し、東屋横にある檜ノ木の切り倒しおよび切断（シイタケ栽培の原木にする為）と湿地帯の除草の作業を実施しました。
- 11月24日（土）親子自然観察隊は里山の暮らしを体験しました。説明の後、①千歯抜きで脱穀、②脱穀した粃を唐箕で風選別、③藁を叩いて柔らかくし擦って輪飾り作り、④焙烙（ほうろく、素焼きの浅い土鍋）で大豆を炒って石臼で粉にしてキナコ作り、⑤焚火による焼き芋作り、⑥昔の農具（カゴ、テゴ、フゴなど）の展示と説明をしました。参加者は、親8名、子8名、見学者1名、会員12名でした。朝早くからの焚火の準備をし、草原ゾーンの竹などの廃材を焼却処分しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

- 12月8日（土）収穫祭準備（洗米・会場づくり）
- 12月9日（日）収穫祭（餅つき）親子自然観察隊・二俣瀬子ども会・他招聘
親子自然観察隊解散式
- 12月22日（土）維持活動・年末懇親会

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「寒造り」 （原田満洲夫 記）

“登校児 湯気が影負う 寒づくり”

今年もわが郷の永山酒造で新酒造りが始まった。コメを蒸すための煙突からの煙と軒先間からこぼれ出る湯気や、蒸す香りは初冬の風物詩である。

早朝二俣瀬小学校の遠方から登校するデマンドバス利用の数名が列を組んで木田橋を渡りこの酒蔵のそばを通り抜ける。学童はこの日影の範囲は、少し陽が当たっている場所よりスピードを速める。今でこそ石炭を使った釜焚きは無いものの付き添う学童見守り隊員は勾と雰囲気は非常に懐かしく歩くスピードを緩める。

先ゆく児童の湯気影から外れる瞬間を見てこの句を詠んだ。近い時期に新酒前に飲める「にごり酒」の味を思い浮かべながら！ 二俣瀬毎年冬の風物詩で有る。

5. 親子自然観察隊 「里山の暮らし」



今日の行事の説明



千歯扱きによる脱穀



稲藁を撚って輪飾り作り



焚火の熾きを使って焼き芋作り

6. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(35) クジャクチョウ *Inachis io* 鱗翅目 タテハチョウ科

このチョウは山口県にはいませんが、珍しいのであえて取り上げました。先月号の「クモマベニヒカゲ」も、山口県にはいないチョウでした。

このチョウは中部地方より青森までと北海道に生息し、3月中旬より春、夏、秋の3回出現し10月下旬に姿を消します。ご覧の通りすごく派手な蝶ですが、翅を閉じた裏側は黒い色をしており、木陰に入ると見失ってしまいます。山口県内でよくみられるアカタテハやルリタテハ、ヒオドシチョウの仲間です。とても飛翔力が強いので、網で撮りそこなうとアット言う間に逃げられてしまいます。

筆者は長野県で観察しましたので採集は禁止されており、採集はかないませんでした。カメラで撮影でき十分満足して帰りました。花で吸蜜しているときは少々近づいても逃げることはありませんでした。皆さんも、ぜひ一度はご覧になってください。



翅の表がケバいくジャクチョウ



翅の裏は黒い



7. 会よりの連絡事項

1、稲作体験 最後の収穫祭に向かって準備をしています。11月20日は2俵半の精米を行いました。売れ残った精米と合わせて昨年より更に多く餅つきとなる予定です。

12月8日(土)午後1時より(永山酒造で洗米。テント張り・もみ台づくり・乾燥台づくり・バーナ/餅つき機器/ダイガラ臼)等の準備を行います。

2、来年度の稲作準備の為

イ) 稲苗の注文予約を今井相談役にて終わりました

ロ) 田んぼの粗鋤の為運搬した厩肥の散布を近い日に行いたいと思います。引続いて粗鋤(粗お耕し)を岡本農産へ依頼します。

8. 編集後記

先日、福川こどもクラブの活動で秋吉台景清洞へ洞くつ探険に行きました。景清洞の反対側は三角洞(みすまたどう)とつながっており、雨が多く降ると、三角洞の方から本来は洞くつの外にいる色々な生物が流れ込んで来ていることがあります。この日も洞くつの奥で見つけたのはカメ、ウシガエル、やせ細ってしまったカエルなどなど…。行きで見つけた時は、これって洞くつの外へ連れ出して行っているの？自然に任せるもの？と迷いましたが、講師の方に意見を聞いて、帰りの道で見つけた生き物についてはレスキューする事になりました。もう老体であろうと言われるカメも連れて帰りましたが、洞くつから出てそうこうするうちにどこかへ行ってしまいました。今頃だったら本来は川の底で冬眠の準備に入っているだろうとのこと。時期が遅れて洞くつの外に出してしまい、本当はいけなかったかも…。この冬は無事にこせるのか。きちんのと見届けなかったのが心残りです。

(大野 靖子 記)